



## 対話型鑑賞とは？

本園の玄関に、佐武賞受賞絵画作品が展示してあります。鑑賞するためでもあります、「感じたこと」「気づいたこと」を自由に表現して楽しむという目的があります。

小中学校の研究授業に参加し、児童・生徒が、自分の考えを相手に理解してもらうため考えながら話す姿、友達同士で考えた意見を他の友達とも共有し、考えを広げる姿にとっても感動しました。そして、こども園ではどんな取り組みが必要なのか…自分の思いを語る場面を作る必要性を強く感じました。

対話型鑑賞は、感じて表現したことは否定しません。感じるままに語ることで、自分の思いを語る心地よさを感じていくのです。ぜひご家庭でも、絵本やイラストなど利用して「対話型鑑賞」にチャレンジしてみてください。そして、子ども達の「つぶやき」を園に教えてもらえればうれしいです。

園長 長谷部 弥生

## お知らせ

### 【第1回 こども園あり方検討会 開催について】

こども園の教育及び分園のあり方についての検討会の日程が決まりました。

〔日 時〕 7月2日（火） 18:30～

〔場 所〕 日南町役場

〔委 員〕 有識者 3名 保護者会代表者 3名 地域代表者 3名

\*各園の保護者会代表者の方にはお世話になります。

\*有識者には、「新宿せいがこども園」 中山副園長に参加していただきます。



## 見守る保育 の巻

共育(ともいく)  
コーナー 🖐️

にちなん十色では近年、東京都にある『新宿せいが子ども園』に職員が視察研修に行かせて頂いたり、藤森園長をはじめ中山副園長からも直接、よりよい保育・教育について学んでいます。【見守る保育】は、その根幹となるものですが、とらえ方としては『みる』と『まもる』が合わさったものとして考えられています。

『みる』とは、一人ひとりを理解すること  
『まもる』とは、適切な援助をすること

そして『見守る保育の三省』として…

- ① 子どもの存在を丸ごと信じただろうか？
- ② 子どもに真心をもって、接したただろうか？
- ③ 子どもを見守ることができただろうか？

園内では、“子ども”の部分、身近な“家族”“職員”に入れ替えて自分事として考えられるように取り組んでいます。

是非皆さんも、一緒に日々実践し、目の前の子どもだけではなく、日常の中で【見守れる】大人となっていきましょう。

藤森園長のこれらの言葉は、いつも自分たちを振り返り、実践に結び付けてくれます。